Jao ニュース

３７９号　２０２３年６月

発　行　じゃおクラブ
責任者　大澤　輝之
編　集　事務局
ＵＲＬ　https://jaoclub.com/

事務局だより

１．５月１日現在会員数

湘南の杉本　明様が 2023 年 3 月 23 日に逝去されました。永らくじゃおクラブの活動を支えてくださいました。心よりご冥福をお祈り申しあげます。

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
40	35	30	28	133 名（E グループ会員：119 名）

5 月入会　頴川　明夫氏（湘南）

２．次回の運営委員会

日時：　2023 年 7 月 23 日（日）10:30～12:00　オンライン開催

議長：　石井委員　　書記：　大澤委員

総会を対面で開催～4 年ぶりの再会を祝う～

議決権行使数、80%を達成

2023 年の第 32 回通常総会は対面にて開催しました。おかげさまで、25 人の出席のもと、無事終えることができました。今回は、出席、委任、議決権行使を合わせた数が 107 名、会員数の 80%に達し、近年にない高い数字となりました。これも会員の皆様方のご協力の賜物です。ありがとうございました。

新入会員の初年度の会費を無料に、会則を改訂

総会では、今後、継続して新入会員の入会初年度の会費を無料にする案が可決されました。会員募集の後押しになればありがたく存じます。

公民館や地域の団体が主催する「活動紹介イベント」、チラシ、公民館や地域の団体を通じた口コミ、ホームページを見ての入会などが増えています。

コロナ禍の収束と共に、地域の活動が元気を取り戻してきました。入会支援策をご活用ください。

地域を超えた交流、久しぶりの懇親会

総会終了後に、ささやかな懇親会を行いました。合計 25 名の参加があり、地域を超えて交流することができました。

特別寄稿

杉本明さんの訃報を受けて

多摩・田園　竹内　純一

じゃおクラブ第 32 回通常総会を直前に控えた 2023 年 5 月 19 日、じゃお湘南の杉本明さんの訃報が飛び込んできました。2023 年 3 月 23 日に大往生を遂げられたとのお知らせでした。（右写真：右が杉本さん　左は村田さん）

じゃお湘南の島村さんは「杉本さんは、元じゃおクラブ代表の守永英輔さんに請われて、1995 年 4 月のじゃお湘南設立から、そう遠くない時期に入会されました。当時は、地元、逗子市で「逗子市老人クラブ連合会会長」や「逗子市社会福祉協議会理事」を務め、大層活発に活動されていました。逗子市での活動が忙しかったこともあって、一旦、じゃおクラブを退会され、2009 年 11 月に再入会されました。」と語ります。

同じくじゃお湘南の村田さんは「杉本さんはいつも周囲に気を配る方でした。湘南の会合では穏やかな話し方で発言されていたのが印象的です。」と話しました。

杉本さんは、グラファーズの仲間でした。当時、杉本さんは奥様の介護があって毎回は出席できませんでしたが、それでも何回もご一緒する機会がありました。

杉本さんはご高齢となってもパソコンを使ってデジタル写真の後処理をこなしておられ、スマートフォンなどの新しい技術への興味が尽きない方でした。

コロナ禍において、止むを得ずオンラインで活動を始めた頃は、数回の練習で Zoom の接続をこなしておられたことを思い出します。伺うと「カナダ在住の親戚と Zoom 経由で話せるのが楽しい」とうれしそうに語っておられたのが印象的でした。

残念ながら 2021 年 10 月に骨折されてからは車椅子生活となりましたが、「じゃおクラブ」の会員であり続けたいというご意思が強く、会費の支払いをされ、「じゃおニュース」も喜んで読んでいただいたそうです。（左写真：グラファーズの仲間と共に　いちばん左が杉本さん）

島村さんは「杉本さんが、湘南の CSS（Creative Senior-life Salon）に講師として登場し『自分史と少年航空兵の経験』を話されたことを覚えています。その時、ご年齢にもかかわらずパワーポイントをご自身で操作されていたのが印象的でした。」と話されます。

杉本さんは 14 歳の頃、少年飛行兵として入隊された経験をお持ちでした。「戦争は二度とやってはいけない」と、しきりに口にされていました。次ページに 2015 年 11 月発行のじゃおニュース 289 号に寄稿された「会員だより」を再掲します。杉本さんの想いが伝わってきます。

戦後 70 年で思うこと

湘南　杉本　明

【2015 年 11 月、じゃおニュース 289 号に掲載された記事の再掲です。】

広島駅を通過するとき、焼け野原に巨木の幹だけが不気味に聳え立っているのを見て、特殊爆弾（原爆）のすごさを知りました。

それから 70 年、原爆の被害を受けた広島の被爆樹が、生き返っていることを知りました「被爆樹巡礼 杉原梨江子著」。（写真左：背の高い木が焼け残ったユーカリ）

焦土と化したヒロシマの街は、78 年間草木も生えないと言われていましたが、クスノキ、サクラ、ソテツ、アオギリ・・・・と芽を吹き返しました。焼け野原に芽吹いた小さな緑に人々は勇気づけられ、生きる希望を取り戻したと言われています。（写真中：ソメイヨシノ）

ヒロシマの復興とともに、樹木は一歩一歩成長し、大きな木へと育っています。爆心地から 2 キロ内で芽吹いた 170 本の木を、広島市は「被爆樹木」として登録し後世に遺しています。

少年飛行兵に入隊するとき、村の神社で武運長久を祈り、歓呼の声に送られて出かけましたが、神社に聳え立つ樹齢 1000 年のクスノキも、“生きて帰って来いよ”と私を見送ってくれていただろうと、72 年たった今でも故郷のクスノキに手を合わせています。

入隊して菊のご紋の銃を授与され、“お前らは、生きて帰れると思うな”と檄を飛ばされ、特攻訓練を受けている最中に玉音放送で戦争は終わり、故郷に帰ることができました。そのとき“俺は死ななくてよかった！”と、大声で叫びたいぐらいでした。（写真右：神社のクスノキ）

人の命を奪う戦争は二度とやってはいけないと、70 年たった今でも思い続けています。

杉本さんのインタビュー記事

杉本さんは 90 歳の時に、神奈川新聞のインタビューを受けられました。この時のインタビューは「９０歳、元少年飛行兵が初めて語る戦争体験」として、2019 年 9 月 9 日付の神奈川新聞に掲載されました。下記の URL より読むことができます。

https://www.kanaloco.jp/news/social/entry-194128.html

会員だより

定年後を楽しむ

県央　福山　信二

4 年前に 71 歳で会社を退職した時、これから人生をどう楽しんでいくか、先輩方がどのようにしているのか気になっていました。ちょうどその時、海老名市の広報にマジッククラブ講習会参加者募集の記事が目に留まり応募し 1 回 2 時間で月 2 回、計 5 回講習を受けました。

参加者は 10 名いましたが講習会終了後会員として残ったのは 5 名でした。コロナ感染拡大で 2 年間活動を休止して再開した時には 2 人になっていました。現在は既存会員と新会員を含め計 6 名で月 1 回活動しています。たまーに老人クラブ等で披露しています。

海老名市で毎年行っている生きがい発見塾にも妻に誘われて行きました。会場の、えびな市民活動センタービナレッジには幾つかのブースがあり、その中の「じゃおクラブ」ブースの前を通りかかったとき、声をかけられて活動の説明を聞きました。多少興味もあり体験参加ということで幾つかの行事に参加させてもらいその後正式に入会しました。

じゃおクラブには色々な行事が沢山あり自分にあった行事に参加することが出来ますし、興味があるものがあれば新たに作ることもできます。私は、そば打ち、上河内ファームで野菜作りを主にしており他の行事にも参加しています。人と会い様々な話をしてそれまで知らなかった事を知る楽しみ、そしてそれが次の行事に参加する為の体力と健康を大切にする動機付けになっているのです。前回も書きましたが一、十、百、千、万の実行（一日に 10 人の人に会い、100 文字を書き、1,000 文字を読み、10,000 歩歩く）を時々ですが実行しています。（写真：2021 年 3 月 3 日、府中市郷土の森博物館にて、左端が筆者）

海老名市は圏央道が開通したり、駅の東口、西口を中心に大きく開けてマンションや大型ショッピングセンターが出来たりしています。人口も海老名に住み始めたときは約 7 万人でしたが今では 14 万人を超えようとしており今後も増えるそうです。その中で、自分の住んでいる街について成り立ちや歩み等あまり分かってない事に気付きました。市内にはたくさんの寺・神社・古墳等有名な史跡があると聞いています。健康なうちに近場から史跡を見て回りたいと思っています。

忘れられない言葉

湘南　古岡　實

2 月 6 日「新 1 号畑で、大根、蕪の収穫が出来ましたよ。」との文面に農園の皆様方の写真を添付したメールを秋山さんに送ったところ、翌日、「ありがとう」と短い言葉の返信がありました。その後、何度か「体調は如何ですか？」とのメールを送信しましたが、返信は無く、心配になり 3 月 18 日ご自宅へ電話をしました。

奥様から「秋山は 2 月 12 日に亡くなりました。ご連絡が出来ず本当に申し訳ございません。」と、涙声でのお返事で、只々、絶句となりました。

秋山さん（秋山泰一さん、享年 75 歳）とは 2018 年 10 月、「農園」の体験参加の帰りに、慶応前のバス停迄送って戴いたのをきっかけに気軽に話が出来る様になりました。東南アジアで仕事をした苦労話、甲状腺がんの手術で声帯を残す為にアメリカまで行って手術をした話、又、好きな四字熟語、慣用句等。

その中でも一番よく話をされたのが、「『農園』に参加する事が、今は唯一の楽しみだ。活動前日は小学時代の遠足前夜の童心になるよ。『永田農園』の永田社長が農園の作業は、『野菜を育てる楽しみ：野菜の収穫を喜ぶ気持ちを持って』と言われているが、自分の『農園』への参加の目的は、その言葉に土との触れ合いを加え、『手足汚れて、心洗われる』の気持ちで参加をし、健康増進をしているんだよ。」と、3 号畑の行き帰り、歩きながら、かすれた声でとぎれとぎれに何度も何度もその言葉をお聞きしました。

亡くなられて、はや三ケ月、5 月 12 日の月命日、貴方が農園の収穫野菜で大好きだと言われた新玉葱をご自宅へお持ちしましたが、食べて戴きましたか？

貴方から教えて頂いた「農園」へ参加する気持ち「手足汚れて、心洗われる」の言葉を、忘れることなくかみしめ、貴方の写真をバックに入れ、「農園」に参加しています。秋山さん、本当に、本当にありがとうございました。

じゃお湘南

農園日記―鳥害・獣害との闘い

家庭菜園をされる方はよくご存じだが野菜づくりには虫の害がつきものである。ベランダで育てていたパセリが一晩で全滅した苦い経験をお持ちの方は少なくないだろう。じゃお農園でも虫害は当たり前だが、今日はじゃお農園がカラスには勝ったが、アライグマには負けた話を披露しようと思う。

じゃお農園は 1996 年 4 月に開園したが、開園した年はカラス達に周知されておらず、被害がなかったが、2 年後から彼らの襲来を受けることとなった。じゃおのトウモロコシは旨いと周知されたようである。早速対策会議を開いた結果、畑の周りをネットで囲んでも意味がないと、敵は空から来るのだから、トウモロコシが食べ頃になる前にトウモロコシの実自体を袋状のネットで覆うことにした。

ネットを紐で頑丈に幹に固定したのにかかわらず、ある日、ネットはすべて取りはずされ、実がすべてやられてしまったのである。袋の外から突くならわかるが、頑丈に茎に結んだ紐を器用にとりはずしたのである。これにはびっくりである。

翌年からトウモロコシ畑の内外に棒を立ててテグス（釣り糸）を張ってから被害は大分減ったが、それでもなくならなかった。当初、カラスは空から飛んでくると思い、テグスは高めの位置（地面から人間の胸の高さ）に張ったのだが、地面から 30cm の位置にもテグスを張るようにしてから、被害は激減したのである。カラスに勝ったのである。あとでわかったのだがカラスは空の上から侵入するのではなく、一旦地面に降りてから横から侵入するのだそうだ。農家がやっているように畑の周りをネットで囲むことが正しい防御法だったのである。

2015 年からじゃお農園がある藤沢市打戻地区のトウモロコシ畑が正体不明の「獣」に荒らされるようになった。考えられる敵はタヌキ、アライグマ、アナグマ、ハクビシン、リスのいずれかだが、ある日、ある農家の捕獲器にアライグマが捕獲された。一説によると飼主に捨てられたアライグマが鎌倉から藤沢に集団で移住してきたという。本当だろうか？

2016 年～2018 年の 3 年間、じゃお湘南としては防鳥ネットを張り巡らし、しかもネットの裾を土に埋めて侵入を防ぐのだが、どうしても防御できず、我々が食べられたのはトウモロコシがまだ「ヤングコーン」の時だけだった。止むを得ず 2019 年から、トウモロコシの栽培は一切中止したのである。

「アライグマ」には負けたのである。専門業者の話では、アライグマやハクビシンの防御には金属製のネットでないと破られ、場合により電気柵やストロボ設置（青色 LED）を使うのだそうである。とても趣味で栽培するじゃおクラブでは出来ることではない。

余談であるが、タヌキとハクビシンは茎を斜めに倒した状態で立ったまま食べる。しかも実を食べ残すことが多い。アライグマは茎を横倒しにして皮をむいて実全体を食べる。スイカを食う時は手を使って中身をすくい出すそうである。私は「獣」に襲われたじゃお農園のトウモロコシ畑の惨状を見て侵入者はアライグマだと判断している。以上はカラスには勝ったがアライグマに負けたお話でした。

（湘南　島村　忠男　記・写真）

男の料理 & CSS を開催しました

男の料理

2023 年 5 月 14 日(日)、明治公民館に 16 名が勢揃いしました。新しく加わった仲間と本日の CSS の講師をしていただく会員のご子息の家族も一緒です。参加者は 4 名ずつのグループで協力して 3 品を完成させます。今日の献立は下記の 4 品です。食材には、じゃお湘南の農園で収穫した新玉ねぎを使いました。予定よりも早く料理ができあがり、皆さんで美味しくいただきました。

【献立表】

- 新じゃが＆新玉ねぎのシンプルスープ
- 美味しい手ごねハンバーグ
- 焼きタケノコとキヌサヤのサラダ
- 五目混ぜご飯

CSS（創造的なシニアライフサロン）

男の料理に参加された皆さんで美味しくいただいた後の午後からじゃおクラブ会員（小坂さん）のご子息を講師にお迎えして、「渦電流による探傷検査について」の講演をしていただきました。

初めに、講師である小坂大吾さん（工学博士、准教授）の勤務先である職業能力開発総合大学校のキャンパスガイドで学校の特色等をご紹介いただきました。次に、金属表面の探傷箇所を渦電流による非破壊検査計測技術について実験をしながら、参加者からの質問にも分かり易く説明していただきました。素人である私にはなかなか理解しがたい内容もありましたが、革新的な技術を行っているのではと思いました。

（湘南　安田　賢二　記・古岡　實　写真）

じゃお多摩・田園

東京ジャーミイで異文化体験の一日～仲間と街歩き～

多摩・田園では 5 月 16 日に「仲間と街歩き」で「東京ジャーミイ（Tokyo Camii）」を訪れました。東京ジャーミイは、小田急線の代々木上原駅から歩いてすぐ、井の頭通り沿いにあるイスラム教のモスク（礼拝所）です。今回はガイド付きの見学で、東京にいながらにしてトルコ文化に触れることができました。

東京ジャーミイの魅力は、第一に『伝統的なオスマン様式の建物』であることです。トルコから送られた建築材料を使用し、トルコの職人が来日して仕上げました。外装だけでなく、内装にもトルコ・イスラムを代表するさまざまな工芸作品が散りばめられており、エントランスホールには、伝統的なトルコ民家の応接間も再現されています。椅子やテーブル、本棚など、目に見えるもの全てがトルコから送られたものです。

見学では、戦前、ロシア革命の混乱を逃れて、日本へ避難したカザン州のトルコ人たちのために、日本政府が協力して作られた東京回教礼拝堂が東京ジャーミイの始まりとなった歴史が紹介されました。

東京ジャーミイの壁や焼き物にはチューリップ模様が多く描かれています。原種系のチューリップはトルコ原産で、トルコの国花でもあります。オスマン様式の美術工芸には欠かせない存在となっているそうです。

この日は許可を得て礼拝を見学しました。礼拝堂に足を踏み入れると、そこには別世界が広がっています。1 つの大きなドームを 6 つの小さなドームが支える広い空間、太陽の光を取り入れたいくつものステンドグラスの輝きや繊細な幾何学模様、ドームの中央から吊るされたシャンデリアなど、視界に広がる荘厳な雰囲気と独特の世界観に圧倒されました。やがて人々が集まると、礼拝の始まりを告げる「アザーン」が響き渡ります。朗々とした声がドームに反響して堂内は厳粛な雰囲気に包まれます。こうして異文化の世界を体験することができました。（礼拝堂内部は許可を得て撮影しています。）

この日は特別なランチプレートをいただきました。何と、シェフは 2 日前にイスタンブールから来日されたばかりとのことでした。メニューは、牛肉と野菜の煮込み、キュウリのサラダ、レンズ豆のスープ、バターライス。野菜を上手に使ったヘルシーな料理で、参加者全員が完食しました。その後はハラールマーケットで珍しい食品を買ったり、カフェで本場のトルココーヒーやスイーツを味わったりして過ごしました。

後に「イスラムのイメージが変わりました。」「楽しい且つ貴重な見学をさせていただくことが出来ました。」「大変有益な企画でした。」などの感想が寄せられました。短い時間でしたが、異文化を興味深く感じていただいたとしたら幸いです。

東京ジャーミイでは、毎週土曜・日曜と祝日の 14 時 30 分からガイド付きの見学が行われています。個人で参加する場合は予約不要です。ご興味のある方は東京ジャーミイのホームページをご覧ください。

https://tokyocamii.org/ja/

（多摩・田園　竹内　純一　記・写真）

5月2日　グラファーズ撮影会　「銀座街撮り」

当日は、雨天の場合は写真展巡り等と入念な準備が成されていた為かその憂いはなく快晴に恵まれた。足取り軽くルンルン気分、街撮りに望遠なんてクソ重たいレンズは不要、とばかり小道具を一切省いて臨んだ。こんな生温いところからも未だまだと言うか益々と言うか代わり映えのないグラファーズである。（横槍に備えて、約1名、それ誰？はいはい私です）

そもそも念入りな計画に位置する反省会が良くも悪くもグラファーズの支えとなっていることは確かである。

一人くらい雨だ！雪だ！嵐だ！それーとばかりカメラ片手に家を飛び出す御仁が出てきても良さそうなものだけれど、マ、仲間内でも奇人、変人にされそうで、いやいや、二科展入選ともなれば全国に「じゃお」が知れ渡って・・・

なんて、こんな飛躍し過ぎの空想も反省会の一杯が為せるところでもある。

連休の序盤でもありコロナ明けの兆しに外人さんの姿も多く見受けられる。今日は5名（1名の都合がつかず残念だが）が銀座のランドマーク日産クロッシングに集結した。向かいの三愛ビルに思いを馳せて暫しノスタルディック、'27年の竣工を目指してリニューアルとか、次の銀座は返り咲きの新ランドマークを目標に頑張ろう。（写真右：リニューアル前の三愛ビル　2015年1月撮影）

さて銀座といえば柳、「銀座の柳、東京行進曲、東京ラプソディ、東京音頭」と来ればね、街路樹は殆どが柳とテーマを決め込んでいたのだが、今回の撮影エリアには殆ど無いことが分かった。考えてみれば初代柳は江戸時代に遡ることになる。並木通りに並木座という映画館があって付近は柳並木だったと記憶しているが一昔以前のことである。大事なイメージなので間違いの真相は知りたくない。何度も植え替えていることであろうから当時は柳であったことにしておきたい。

授業を抜け出して映画に没頭した劇場の一つがここの並木座で、狭い階段を降りて僅か80席程の地下ホールだった。邦画のみの上映で名作の殆どをここで見ている。センスのない大きな看板が下ろされたのは20年ほど前らしい、小綺麗になってビルは健在である。他にも〇〇名画座、××武蔵野館等は2本、3本立てで80円、100円で名画の鑑賞が出来、しかも居座りで同じ映画を2回も見て帰るなんてことさえあった。

話が柳から映画にズレてしまったが「ファインダーに映るは目の前の映像のみにあらず」なんてね。ズレた序に、知っている様で知らないのが銀座、東京が誇る地域ブランド名でもある銀座、日本中至るところの商店街に「〇〇銀座」が存在する。東京人としては何とも誇らしいけれど、銀座とは銀貨幣の鋳造所のことで駿府（静岡）に置かれていたものが移設されたということらしい、繁華街の代名詞ではない「××銀座」なるものが京都にもあるとか、知らないほうが良かったかな・・・？

紙面が少なくなってきたので気持ち行状報告、ビルの谷間から見上げるのが銀座風景の常だったが、初めて目貫通りを見下ろした。GINZA SIX は開店から数年しか経っておらず屋上庭園もそれ程知られていないせいか、コロナのせいか閑散としていた。ビルの RF とは思えないほど広大で整備された公園は日本一の地価を思うと優雅な気分になれる。（此方に来られた折は休息場所としてお勧め）外に目を向けるとスカイツリーに東京タワーがバッチリ、でも皆のレンズはそんなところには向いていない。カメラを持ち歩くと普通ではない見方が備わるようで、着飾ったビルの正面ではなく裏にあるドラマを捉えようとしていた。確実な進歩ではあると思う、能書きと解説が無ければ意図が伝わらない、故に反省会ありきかな。良き日よき仲間、久し振りの銀座でした。

日産ギャラリーでお出迎えの GTR

「爺さんと気の弱い男は乗せないわよ！」

と、無視されたような・・（ひがみ根性に）

「どうだいこのブス！」（トビっきりのポートレート）

肖像権とやらで訴えられそ～

（多摩・田園　山脇　哲郎　記・写真）